

平成30年度 第2回 五泉市水道委員会 議事要約

日 時 平成31年2月14日(木) 午後1時30分～午後3時8分

会 場 五泉市村松支所 2階 会議室3

出席委員(9名)

大堀裕勝委員・岩城良雄委員・野崎和久委員・塚野康志委員・
笠原伸五委員・樋口幸衛委員・山下キミ子委員・中川正城委員・
斉藤明委員

欠席委員(1名)

波多智生委員

出席者 事務局(11名)

上下水道局 齋藤局長・松澤次長・中村次長・本間係長・難波係長
玉木係長・梁取係長・武藤係長
㈱新光コンサルタント3名

傍聴者 0名

報 道 0名

1 開会

13時30分、第2回水道委員会を開会する。

(会議の定数の確認)

委員10名中、9名の出席確認。半数以上の出席を受け五泉市水道委員会条例第6条第2項により会議の成立を確認。

2 本日の説明

五泉市第2次水道ビジョン「第4章 五泉水道事業の将来像と施策」について審議いただくことを説明。

3 議事

(1) 審議

「第4章 五泉水道事業の将来像と施策」について

事務局より「第4章 五泉水道事業の将来像と施策」について一括説明。

【質疑応答】

● 斉藤委員

地震等の災害時に使用する給水車は五泉市にあるのか。

● 事務局

水が1m³入るタンクを車に乗せて、給水活動をする。1m³タンクが2基、0.5m³タンクが1基ある。

●山下委員

水質管理が重要と考える。水道の水の温度が場所によって違うと感じる。また、除草剤等の農薬の影響は受けるのか。

●事務局

配水池に近い場所の方が、地熱の影響を受けにくく水が一番冷たい。水が長い距離、水道管の中を通り末端の地域まで行くと、どうしても地熱の影響で、温度がぬるくなる現象が発生する場合がある。水質管理については、次亜塩素というもので滅菌をしている。水道管の末端の地域でも、法律の基準値以上になるように管理、運用している。水質検査については、五泉配水区や村松配水区などの配水区ごとに、配水池から一番遠い場所で、毎日検査をしている。井戸から汲み上げる原水、浄水場で作られる水道水も法律に基づき、自然界の病原菌や農薬物などの色々な物質について定期検査をしている。また、原水自体、地下 40~70m位の深さの地下水なので、農薬物、自然界の動植物の汚れ等はろ過されて、その水自体には達しない、非常に安全なものと考えている。

●中川委員

資産管理ということで石綿管の更新、耐震管の整備は優先事項だと思うが、造成等で給水人口が増え、集中して給水するエリアが変わり、給水のメインの管を太くしたり、強化したりする必要のある地域はあるのか。

●事務局

造成地等の増で供給能力が不足で、管の変更が必要なエリアは今現状では無いと考えている。しかし、長い距離をポンプで圧送するような一部の地域では水圧の確保のために管を太くする計画や、火災の消火栓利用時の水圧確保のために管を太くする計画は出てくると考えている。

●大堀委員

前回の委員会の時に、五泉地区、村松地区の水道料金の統一に向けて、3年経過措置で決まっていたが、この委員会でもた料金を考えていく方向性なのか。また、水源、井戸の場所が集中しているが、分散して災害等のリスクを低減するというのは可能なのか。他の水源の有無は調査しているのか。

●事務局

料金については、平成 28 年 4 月 1 日から料金改定を行っており、議会の承認を受け、条例で整備されたもので、村松地区の 3 年経過措置、3 年間で五泉地区の料金水準まで引き上げ、平成 31 年 4 月からは統一料金というのは決定事項である。

水源については、村松浄水場、東部浄水場が早出川の右岸、左岸にあり、その早出川沿いの地域が水量的に豊富で、水質も良好な地域である。浄水場から近い所で取水できれば、費用面においても良いと考えている。災害時のリスク分散という事では、五泉、村松、東部と浄水場があるが、一部の浄水場が使用不能になっても、他の浄水場から水を供給できるよう整備を進めていきたいと考えている。

●樋口委員長

井戸から浄水場に水を運ぶ導水管が長くなると、水質管理のリスクは上がるのか。

●事務局

水は地下からくみ上げる段階からパイプの中を通り、外気と触れ合うことが無いので、汲み上げる前の水質と浄水場に届いた水質は同一と考えている。

●岩城委員

危機管理体制の所で追加マニュアルがあるが、どういう対応にそったマニュアルなのか簡単に説明いただきたい。

●事務局

施設事故停電対策マニュアルは、停電や地震時の点検対策、水道管の破裂や水不足の時の給水車の使用をはじめとする給水体制の確保、連携対策のマニュアルである。クリプトスポリジウム等対策マニュアルは、大腸菌は塩素消毒で死滅するが、クリプトスポリジウムは塩素が効かない物質で、それが水道水に混入すると食中毒、腹痛や下痢を起こす。五泉市は地下水なので発生することはないと思うが、その対策や給水体制のマニュアルである。新型インフルエンザ対策マニュアルは、職員が新型インフルエンザになった時の対応ということで、職員向けの対応となっている。

●樋口委員長

停電対策の非常発電用の電源の確保は、地震や水害と色々な災害があるが、設置型、移動型、どのようなものを考えているか。

●事務局

工事現場にあるような発電機では容量が足りないので、電力確保のため、建屋を造って、その中に発電施設を設置するという大がかりなものを考えている。

●樋口委員長

電力確保では、建屋設置型でなくても、車移動用で2台、3台繋げば能力が発揮できるのではないかと。建屋設置と車移動用の耐用年数もあるかと思う。いろいろ検討していただきたい。

●事務局

検討していきたい。

●樋口委員長

前回、水道管の末端の地域では、水が停滞しているみたいな話が出たが、耐震対策の中で配水管のブロック化を考えているのであれば、停滞を解消するために常時水が回るようなブロック化、設備にすることはできないのか。

●事務局

全ての地域で水が回る、ループ化するには更新費用等も掛かってくるので、状況を見ながら、水が動くようなことができるようなことは考えていきたい。

●樋口委員長

人口密集地域は置いといて、人の少ない地域だけで行えば、水を捨てる必要もないと考えるが。

●事務局

ブロック化のイメージは第2次水道ビジョン（素案）の47ページにあるが、配水管が網

の目状にある市街地の中で、水道事故で漏水が起きた時に事故が起きたブロックだけに漏水の影響が出て、ほかのブロックは給水可能というのが、ブロック化ということである。配水区域の末端をほかの配水区域と繋ぐのは経費もかかり、その地域で水道の使用が少なければ、水は停滞するし、ほかと繋いでも水がどう動くかは予想がつかない。繋ぐ工事をすれば、その費用は利用者の水道料金に付加されるので、現在の効率的な管網で、維持管理上の注意を払う方が、費用的には安価と考えている。

事務局より次回議事の「第5章 今後の事業予定と財政計画」、「アセットマネジメント」についての説明と審議を提案。委員の了承を得て、今回の議事に追加。

(2) 審議

「第5章 今後の事業予定と財政計画」、「アセットマネジメント」について

事務局より「第5章 今後の事業予定と財政計画」、「アセットマネジメント」について一括説明。

【質疑応答】

●岩城委員

水道管路更新における耐用年数と実使用年数は、どちらを使用してもかまわないのか。何か決め事や国の指導はあるのか。

●事務局

どちらを使用しても良い。私達がどういう風に考えるかになる。実使用年数を採用すべきだろうと考えている。

●樋口委員長

実使用年数も税法上の耐用年数と比べると、突拍子もない数字ではないと思っている。

●事務局

他の水道事業体でも、税法上の耐用年数ではなく、実使用年数で長期的な維持管理、更新計画を立てている所が多い。

事務局より委員へ水道事業に対する意見を聴取。

●笠原委員

水道ビジョンの考え方としては非常に妥当と思う。大事なのは安定的な供給と水質の確保だと思う。急激な人口減の影響で計画変更の不安も感じる。

●樋口委員長

人口も30%くらい減る。それに合わせて3%、5%上げていっても足りないのでは。物価や材料費も上がってきており、値上げが5%でいいのかどうかは今後の課題であると感じる。

●塚野委員

安心で安全な水を供給するには、いかにコストが掛かるかがよく分かった。第2次水道ビジョン（素案）の55ページに出ている今後の事業を考えれば、今後100年間、年間5億円くらいの費用が必要である。料金値上げの見込みとして、この先40年間、10年毎に7%程度の計画があるが、どうしても計画と現実というのは幅が出てくるので、急激な人口減にも対応できるように、例えば5年でも長いと感じる人もいる、もう少し細かく料金値上げをしても良いのではと考える。

●大堀委員

人口の所が一番課題だと思う。五泉市内も外国の方が多くなってきて、これからも増えると思う。人口減もあるが、その辺の所も見越していく必要があると思う。

●野崎副委員長

資料を見ると、良く研究されていると思う。五泉市のこども課に確認した所、平成30年度4月からこの1月までで子供が190人しか生まれていない。年間だと228人。平成20年は360人生まれている。3分の2しか生まれてない。人口問題、急激に減っていくかと思われる所が心配である。

●山下委員

人口は増えないので、設備投資は厳しいと思う。今あるものを効率的に活用していくことが大事と考える。料金の値上げは仕方のない事と思う。

●中川委員

水が出るのが当たり前となっている。水道の仕組み、水をつくる過程、必要な施設が分かる簡単な資料が市民のみなさんの目に触れられれば、見方も変わってくるのではないか。

●斉藤委員

水道民営化のメリットとデメリットが簡単に分かるものがあると良いと思う。

●事務局

今の所、五泉市では水道事業の民営化は考えていない。ご理解いただきたい。

4 次回のスケジュール

事務局より平成31年3月1日(金)午後1時30分から 村松支所会議室3で開催と説明。

5 閉会

15時08分、第2回水道委員会を閉会する。